

秋の
スペシャル
企画

タキイ培土の

正しい使い方講座

～セルトレイへの土入れから、播種、植え替え作業までを解説～ (編集部)



春や秋、家庭菜園のシーズンになると種苗店やホームセンターの店頭では、たくさん野菜苗が見られるようになりました。しかし、タネのように育ての品種が欲しい時期に並んでいるわけではありません。自家菜園のレベルアップを目指すあなた、家庭菜園から一歩踏み込んで直売所出荷を目指すあなたは、自分の畑のオーダーに合わせタネまきから栽培を始められてはいかがでしょうか。新品種や個性派品種はもちろん、あなたの作業計画、収穫時期にピッタリあった品種を選ぶことも可能です。畑の収穫が続いている間にも次の準備を苗作りからスタートできます。また、セルトレイを使えば畑に直まきするより思わぬ大雨や鳥の被害などでの失敗が少なくなります。

セルトレイでの育苗はまさに、「植物のゆりかご」です。そこに優良培土があれば簡単に苗作りができます。それでは、セルトレイを使った育苗方法について説明しましょう。

① 培土とセルトレイ選び

タネまき培土はズバリこの2種類！

培土は、用途によって各種ありますが、おすすめは肥効が1カ月程度持続するタキイの「たねまき培土」です。タネまき後、面倒な追肥をしなくても、

水やりだけで健全な苗に仕上げる事ができます。

しかし「たねまき培土」では、品目によって苗がどうしても大きくなり過ぎるという場合があります。徒長させたくない場合には、「セル培土TM-1」の方がよいと思います。ただし、最低限の肥料成分しか入っていないので、苗の葉色が少し薄くなり始めたら液肥による追肥が必要になります。

何度も使うセルトレイは高機能なものを！

苗場の経験から、タキイが開発した「根巻き防止ワンウェイ・セルトレイ」128穴の使い勝手が一番です。内部のリブに沿って根が伸びるため、根巻きが少なく老化苗になりにくい工夫が最大の特長で、特許を取得した技術です。根巻きを防ぐことで、移植後の活着が早く植え傷みも軽減されます。また、トレイ側面に折り返しが付いている持ち運びも楽々。小さい工夫ですが、大量の育苗を手掛けるタキイならではの知恵です。

② セルトレイへの土入れ

(手順1) 培土は、袋からそのままセルトレイに詰め使用できますが、より培土の特性を生かすためには使用前に水を少量加えてかき混ぜ、培土に空気を入ってから詰めてやる方が、タネ

セルトレイへの土入れ **ステップ2**



まき後の発根や発芽がよくなります。
(手順2) 手でならしながらセルトレイ全体に培土を入れます。
(手順3) セルの隅々まで培土が詰まるように、セルトレイを少し持ち上げ

て、トントンと培土が落ち着くまで何回か振動を与えます。
(手順4) 陥没したセルがあれば培土を足し、余分な培土を取り除きながら板でならします。

(手順5) 土を詰めたらタネをまく前に水を含ませますが、袋からそのままセルトレイに培土を詰めた場合は、ジヨウロで培土内部まで十分湿る程度の水をやります。水になじませてから土詰めした場合は、培土と水がなじむ程度の加水が適量です。

ステップ3 まき穴の開け方

人差指でセルの中央にまき穴をあけていきます。深さの目安はタネの3倍程度です。ペレット種子をまく場合は、造粒しているためやや深めにします。ただし、葉菜類は深すぎると発芽不良の原因になるので注意が必要です。



ステップ4 タネのまき方

(コート種子) キャベツ「彩音」やレタス「ロマリア」などのペレット種子をまく場合は、まきやすく造粒しているため、手で数粒もって直接セルトレイにまきます。



↑「ロマリア」のコート種子。

ブロッコリー「ハイツSP」のようなフィルムコート種子をまく場合は、親指と人差指か中指で数量つまんで、指をずらしながら1粒ずつまいていきます。フィルムコート種子は、タネがカラーリングされているので、複粒まきになってしまっても判別しやすく、1粒に調整することが容易です。

(小粒種子) ミズナ「京みぞれ」のような微粒種子を1粒まきするには、写真のようにラベルや紙を二つ折りにし、ピンセットで1粒ずつ落とししていくとよいでしょう。



↑「京みぞれ」

↑「ハイツSP」

ステップ5 覆土

残りの培土を使い、手でならしながら覆土し不要な覆土を板で取り除きます。プロの隠し技として、発芽を安定させるためには培土の代わりに目の細かい「バーミキュライト」で覆土する方法もあります。

ステップ6 ラベル立て

どの条にどの品種をまいたか後で分かるように、ルールを作り（左奥にラベルを立てその条から右がラベルの品種とするなど）ラベルを立てます。つい忘れがちですが大事な作業です。

ステップ7 播種後の水やり

ジョウロでセルトレイ全体へ均一に水が浸み込むように行います。量はトレイの底穴から水が出るかでないかの状態が適量です。底穴から大量に水が出るようでは、過湿で発芽不良になる心配があります。発芽までは少量の水で培土の表面が乾かないように管理します。

●プロの隠し技●

「底面給水バット」の利用

旅行など長期の不在で毎日水やりのできない方は、写真のように底面から給水させる方法もあります。

ステップ8 発芽後の水やりと液肥

苗をそろえて生育させるため、葉が触れ合うまでは水やりはやや多めに適湿を保ちます。葉が触れ合い、込み合ってくるると徒長気味に生育するので、水やりを控え気味とし、頑健な苗に仕上げます。ただ、トレイ外側のセルは乾きやすいので周辺部分だけは水を足す必要があります。

「たねまき培土」は水だけで栽培できます。「セル培土T M-1」は発芽後、一週間ぐらいで葉色が薄くなりかけるので、1回目の液肥が必要になります。その後の液肥は苗の状態を見ながら3〜4日間隔で行います。



↑10月24日播種(左からハイツSP、彩音、京みぞれ、ロマリア)で27日目の苗姿。

ステップ5 覆土



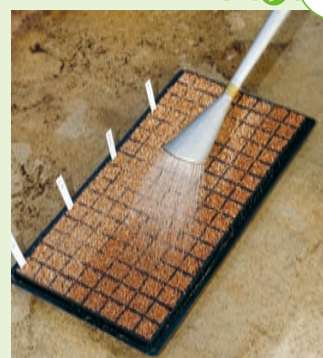
ステップ6 ラベル立て



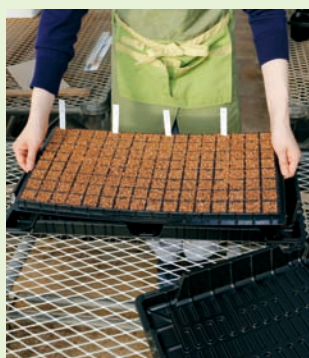
ステップ9 植え替え

「根巻防止トレイ」128穴で育苗した場合、苗が植え付け適期になれば、畑にセルトレイから直接植え付けても

ステップ7 播種後の水やり



●プロの隠し技●底面給水



大丈夫です。しかし、「何日も悪天候が続く畑に植えられず、このままでは老成苗になってしまふ」、「植え付け後なかなか根づかない」、「高温期には苗が小さいので立枯病が発生してしまふ」

植え替え **ステップ9**

(7.5cmポットへ鉢上げの場合)



手順2



手順1

(72穴以上のトレイへ植え替え)



手順3

などの事態が発生する場合は、7・5cmポットや72穴以上の大きいセルトレイに植え替える方法もあります。

植え替え用培土は、肥効が40日以上続いて灌水だけで栽培できるタキイの「育苗培土」がおすすです。少し重め、排水をよくした植え替え用に向く培土です。

● 7・5cmポットへ鉢上げの場合

(手順1) ポットへの土入れ

培土は、袋からそのままポットに移します。培土の量はポリポットの上の線が何本か隠れる程度が適量です。水やりは、培土内部が十分湿る量にします。ポットの上に水がたまるくらい多めにやり、しばらくして中央部に指を差し入れ、中まで水が入っているか確認しましょう。

(手順2) 植え替え

ポットの水分が落ち着けば、移植を始めます。指でポットに128穴トレイの根鉢が入る大きさの穴を開け、そこに、セルトレイから苗を抜いて植え替えます。この時、写真のようにピンセットを使うと苗を傷めずうまく抜けます。ピンセットがなければフォークなどを活用ください。

(手順3) 水やり

ポットの土と根鉢のすき間が埋まる程度の量に水やりします。
葉が触れ合うまでは適湿で管理し、

その後はやや乾かし気味に管理し健全な苗に仕上げます。

● 72穴以上のトレイへ植え替え

トレイの1列に苗を置いてから、根鉢とトレイのすき間へ培土を入れていきます。最後にセルトレイを持ち上げてトントんと何度か振動を与えて培土をセル内に落ち着かせ、余分な土を手で除いて完成です。



今回は播種から植え替えまでの育苗方法を説明させていただきました。せっかく、タネから栽培するのですから、同じ品目でも、長期に収穫できるように、早生と晩生種の2品種を栽培しようとか、同じ品種でも作型の幅の中で数回に分けてタネをまこうなど、自分だけのカレンダーを完成させていくってください。